

⑨ 茨木市立春日小学校

(1) 事前打ち合わせによる学校別背景とその取り組み



春日小は、昨年度に引き続いての実施です。環境を考える＝ゴミを集める運動という直結した取り組みだけではなく、毎日の日常生活の中で、子供たちが考えて行動できるような出前授業にしたいと考えてみえました。リサイクルを考える授業では、簡単にリサイクルにまわせばいい、というのではなく、リサイクルをする効果を考えて取り組む事。そしてリサイクルする前にできること（リデュース・リユース）を考え活用する事。他には、石炭の代わりに廃プラスチックやホタル石を使っていることも学習しました。

(2) 3つのテーマに分かれたパネルディスカッション



4年生ですが、地球温暖化が与える影響（生き物）（人間）・3R（リサイクル）の3つのテーマにチャレンジしました。キリバス共和国の移住のテーマでは、「日本から飛行機や船を出して、その船の中で、日本語のレッスンを受けてもらったらいい」等の意見もでたグループもありました。

(3) 3つの実験-減容化・分離・発泡



(4) 子供たちの様子

パネルディスカッションでは、分かる情報だけを集め、自分たちの言葉で分かりやすくまとめて発表しました。自分たちだったらどうするか、自分たちにできることは何か？という質問に対しては、みんなで協力して行動に移すという意見が多くでました。授業が終わっても、「家でもう一回実験したいからちょうだい！」と、発泡させるための練りこんだタネをねだる子、「再発泡したボールをもらえなかった」とがっかりしている子など、印象に残る実験となった様子でした。

(5) 子供たちの感想

・班の人たちと話をし、色々今からやらなければならないことがよくわかりました。発泡スチロールをたくさんいれてもリモネンの量が変わらなかったのでもびっくりしました。・はじめは、何で溶けるのかがすごくふしぎでした。でも、説明してくれたから分かりやすくよくわかりました。発泡スチロールにまたもどすといったので、ほくは「そんなことできるわけないやん」と言っていたら、本当にもとにもどったので、こんなことがあっていいのか！と思いました。でもすごく、勉強になったし楽しみながらできてすごくよかったです。・発泡スチロールの材料から作ってみたいです。・リサイクルをもっと家でしようと思いました。・入れたら最初軽かったのに、後から、茶こしを押さえるのが重くなりました。15秒くらい入れたら発泡スチロールにもどりました。私は、「えーっ！」と思いました。これは、リサイクルに使えるなと思いました。楽しかったです。・めっちゃびっくりしたのは溶けた発泡スチロールがもとにもどったことです。科学の力ってすごいなーと思いました。